

基調講演「これからの多文化共生における“連携・協働”」

静岡文化芸術大学 文化政策学部教授 池上重弘

<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami/>

池上重弘研究室

検索

1 はじめにー基調講演の目的ー

- ◇ 外国人住民の動態と日本社会の変化を踏まえて今後の連携・協働のあり方を考える。
- ◇ 具体的には静岡県磐田市での連携・協働の展開を事例に取り上げる。
- ◇ そこから浮かび上がる留意点をまとめ、パネルディスカッションにつなぐ。

2. ニューカマー外国人の増加と減少

- ◇ 外国人登録者数は 20 年間で約 100 万人から 200 万人へ倍増。2008 年以降は微減。
- ◇ 近年では中国がトップ。ブラジルは減少。最近はフィリピン増加が目立つ。
- ◇ 永住者が増加、定住傾向はより一層進展。
- ◇ 依然として就労基盤は不安定→それが各方面に影響。

3. 日本社会の変化

- ◇ 少子高齢化は今後も続く。
- ◇ 一方で、元気で社会参加の意欲を持つシニア層。
- ◇ 社会との関わりに意欲的な大学生や青年層。
- ◇ 外国につながる若者たちの台頭。

4. 静岡県磐田市の事例

- ◇ 多文化交流センターでの学習支援ー地域住民／自治会／行政。
- ◇ いわしんバモス日本語教室ー地域住民／自治会／公民館／行政／企業。
- ◇ 静岡文化芸術大学のいわたプロジェクトー大学／地域住民／行政／学校。

5. “連携・協働” に向けた留意点

- ◇ 行政に求められる心構えー「安い下請け」ではない。
- ◇ 外国人当事者の参画ー社会参加の足場として。
- ◇ より大きな文脈への接続ー“ガイジン好きのインテリ”にならないように。
- ◇ ユニバーサル・デザインとしての多文化共生という視点。
- ◇ 若い世代が希望を持って参入できるように。